

「道徳」教科化に尽きぬ疑問・不安

越教組ニュース

越谷市教職員組合
情宣部
17.2.7(火)
Tel 988-3281
Fax 988-3283

「道徳教科化」学習会報告

安倍内閣のもとで、小中学校の「道徳の時間」が特別の教科「道徳科」に変わるようになりました。二〇一八年度から小学校で、二〇一九年度から中学校で実施と決まっています。その導入を巡って、疑問の声、不安の声が聞こえてきます。そんな声を受けて一月二十三日(月)、学習会が開催されました。講師は教科書全国ネット21の石山久男氏。講義の内容、話し合いの論点を報告します。

道徳って何……

そもそも道徳って何でしょう。道徳というと、決まりを守る、親の言うことを聞く、先生の言いつけを守る等を思い浮かべる人が多いでしょう。でも、言われたから従うだけでいいはずがありません。

人間は一人だけで生きていくことはできないので、よりよい人間関係や社会をつくるためにどうしたらいいか、自分で判断できる力をもてるようにすることが大切です。

判断力を高めるには

学校や地域の生活の中で出会った困難を、先生などの援助を受けながら、みんなはどうしたらいいのかを考え、話し合っていく中で子どもの判断力は磨かれます。また、今の社会や世界

についての科学的な知識を身につけることも、自分の生き方を広い視野から考え判断するためには、どうしても必要です。迷信に惑わされない科学の目や社会の仕組みの歴史的到達点を踏まえることは当然あるべきです。

これを怠ってしまうと、「自己を律する」ことばかりが叫ばれる偏狭な道徳に陥ってしまいます。

教科化の方向は……

では文科省は道徳をどのような方向に向かわせているのでしょうか。

小学校一年から中学校三年生まで、「集団や社会との関わり」で最初に出てくるのは規則の尊重・遵法精神です。社会のきまりができるのは、それなりの必要性と合理性があつてのことです。しかし、その内容も吟味しないで、「ただ「従え」では判断力は育ちません。

しかもその上に「愛国心」がおかれたのでは、子どもたちを「お国のため」に黙って

欠落しているのは

そこに欠落しているのは、人類の歴史的到達点を踏まえた視点です。例えば日本国憲法が重視し、世界的にも共通の価値となつていく「平和」「人権・個人の尊厳」「民主主義」「平和」。文科省の道徳の視点にはこれらの言葉は出てきません。「自由」はできていますが、「責任」とセットになつてどちらかというと抑制的に登場することが多いのです。

これでは現実に立って、みんなが幸福になれる未来的展望は開けないのではないでしょうか。ただ、ただ、「お国のため」であった戦前の修身が、どのような結果を招いてしまったのか、説明するまでもありません。

教科書に対する不安

教科化されると、検定教科書の使用が必要となり、その内容に文科省が今まで以上に立ち入ってきます。小学校道徳教科書は今年採択されますが、道徳科は理科や社会科などと違って学問的内容が確立していないので、文科省のいいなりの教科書になりかねないのです。さらに教員の自主教材も使いにくくなること予想されます。

内面を評価する恐怖

教科化されることで、子どもたちの内面を評価しなくてはならないことも重大です。そもそも人の心を評

教職員の勤務時間他業種上回る

1月15日の朝日新聞で「先生の7割週60時間超勤務」「小中4500人対象 他業種上回る」との見出しが1面におどりました。次いで2月4日にはこの調査結果をもとにした「先生のゆとりどうつくる」欄が紙面半分を使い掲載されました。

教職員の勤務時間については、これまでいろいろなメディアがその多忙さを報告しましたが、この記事は他業種との比較が載っていて、その異常さが分かりやすくなっているので紹介します。

調査では週あたりの勤務時間を20時間未満から60時間以上まで5段階に分けて集計。(標準40時間)週60時間以上働いている割合は、**小学校教諭で73%、中学校教諭で87%**。これを他業種(2011年、2016年調査)で比べると、忙しいと思われる医師で40%、**建設業13.7%、製造業9.2%、運輸・情報通信業の9.0%**といずれの業種よりも高い割合であることが分かります。

教員には「残業が存在しない」という建前があることを忘れてはなりません。「存在しない」はずの職種でこの数字が上がるというのは、異常というほかはありません。

電通の超過勤務問題を契機に俄かに活気づいてきた「時短」の動き、政府も重い腰を上げ、超過勤務を過労死ラインの月80時間から月60時間に抑える法整備に動き出しました。私たち教職員も皆で知恵を出し合い、時短の方向へ向かいたいものです。

これからの教師は

好むと好まざるに関係なく道徳科は出発します。その時、欠けている点を見出し、教師自ら考えて、教材選び、実践する力が必要になってくるのです。